



婦防みやぎ

『第31回宮城県婦人防火クラブリーダー研修会』開催



会場の様子

平成25年9月5日(木), 宮城県庁講堂において, 県内約360名のリーダーが参加し, リーダー研修会を開催しました。

研修会の冒頭, クラブ員の永年に渡る功績を讃えて, 永年功労宮城県知事表彰の伝達式が行われ, 8名の受賞者に, 宮城県の三浦副知事から感謝状が授与され, 併せて当協議会の後藤会長から, 表彰の記念品を贈呈いたしました。また, 宮城県無火災地域推進功労表彰の受賞2団体の表彰披露を行いました。

意見発表では, 仙台青葉地区, 亘理地区, 石巻地区の代表者3名から各地区での活動の紹介や震災当時の体験談を発表いただき, 参加者は真剣に耳を傾けていました。また, 東京で行われた幹部研修会の参加者から, 日頃なかなか知ることのできない幹部研修の内容や他地域との交流の様子について報告をいただき, 情報の共有を図りました。



講演「ぼうさい体操」実践の様子



体操を披露する大崎地区のクラブ員の皆さん

後半では, 東日本大震災をテーマとして二部構成で講演を実施し, 第一部の「東日本大震災～宮城県の記録～」では, 震災の記憶と記録を語り継ぐことの大切さを学んだほか, 第二部の「幼児向け防災教育『ぼうさい体操～ぐらぐらステップ～』について」では, 震災を経て生まれた「ぼうさい体操」を通じて, 子どもたちの災害への対応力を育てる取組について実践も交えた御講演をいただきました。参加者からは, 『地域での防災活動で是非活用したい』と大きな反響がありました。

最後に, 参加者全員で防火宣言を行い, 東日本大震災を風化させず, その経験を糧として地域の防火防災に取り組んで行くことを確認しました。

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

事務局

〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
宮城県総務部消防課内 (県庁5階)
TEL 022(211)2374 FAX 022(211)2398

あいさつ

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会

会 長 後 藤 重 子



厳寒の折、皆様いかがお過ごしですか。

私たちの生活に大きな爪痕を残した東日本大震災から丸3年を迎えようとしております。

この震災にて私たちは想像を絶するほどの辛く悲しい経験をいたしました。同時に自分の身は自分で守るという「自助」、地域において互いに助け合うという「共助」の大切さを再認識いたしました。私たちはこの体験を決して忘れることはないでしょう。各地域にて震災後の復旧復興事業「公助」は今なお様々な形で続けられております。被災者の方々が笑顔で向き合える日もそう遠くはないかと思われま

私たち婦人防火クラブ員も復旧復興の手助けと共に「自分達の地域から火災を出さない」「自分達の地域は自分達で守る」というスローガンのもと、防火防災思想の普及のため自分達には何が出来るのか、という視点に立って地域の安全・安心のため活動を続けて行くことが地域の皆様から愛され、頼られる婦防となるのではないのでしょうか。今後とも御協力のほどよろしく願いいたします。

最後になりますが、皆様の今後ますますの御活躍と御健勝を祈念いたしまして挨拶といたします。

宮城県婦人防火クラブ連絡協議会役員名簿

役 職	氏 名	地 区 名
会 長	後 藤 重 子	塩 釜
副会長	八 木 弥 生	仙 台 宮 城
//	櫻 井 よしみ	岩 沼
//	佐々木 文子	大 崎
理 事	穀 田 梅 子	仙 台 青 葉
//	菅 原 政 子	仙 台 宮 城 野
//	山 田 はるみ	仙 台 若 林
//	高 橋 理 恵	仙 台 太 白
//	今 野 なみい	仙 台 泉
//	高 橋 則 子	名 取

役 職	氏 名	地 区 名
理 事	佐 藤 千 賀 子	登 米
//	及 川 サチコ	栗 原
//	松 崎 明 子	黒 川
//	亀 山 いつ子	石 巻
//	菅 生 和 子	亘 理
//	佐 藤 ト シ	仙 南
//	及 川 秀 子	気仙沼・本吉
監 事	氏 家 ふみ子	栗 原
//	田 所 かつ子	亘 理

広告

- ☆少ない掛金でワイドな保障
- ☆年令の別なく掛金は同一
- ☆簡単な手続き

婦人福祉共済制度とは、(財)日本消防協会が全国の婦人消防隊員から保障制度の確立について、強い要望があり、平成4年4月1日に「婦人消防隊員・婦人防火クラブ員」を対象として発足された保障制度です。防火活動中の事故によるケガはもちろん、病気による死亡または入院の場合にも共済金を受けられます。

☆満76歳未満の健康な方なら無審査で加入

☆年度途中の加入でも保障は満額

婦人消防隊員等福祉共済制度

年間800円の掛金で最高500万円の保障

加入の申込みお問い合わせは市町村（消防本部）へ



(公財) 宮城県消防協会

<http://www.miyagi-syoubou.or.jp/>

「地域の連帯力を大切に」

宮城県知事 村 井 嘉 浩



婦防みやぎ第33号の発行、誠におめでとうございます。

皆様方には、日頃から、地域の防火・防災の推進に御尽力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

私の座右の銘は「天命に従って人事を尽くす」です。知事就任以来、経済危機や災害など、次々と予期せぬ事態が発生しましたが、ピンチはチャンスと捉え、果敢にチャレンジしながら、歩を進めて参りました。

各地域において、後継者の問題や、活動に関する悩みなど、様々な課題もあると思いますが、何よりも大切なのは地域の連帯力です。

コミュニケーションをとりながら、これまで培ってきた経験と知恵、女性ならではの視点を活かして、地域一丸となった取組を推進していただきたいと思えます。そうした取組が、地域の防災力を高め、いざという時の大きな力になると信じています。

東日本大震災から間もなく3年が経ちます。県といたしましても、災害に強く安心して暮らせる県土づくりの実現のため、全力で取り組んで参りますので、より一層の御協力と御支援をよろしくお願いいたします。

皆様の御活躍を心より御期待申し上げます。
一緒に、前へ前へ進みましょう！

消すまでは 心の警報 ONのまま (平成25年度全国統一防火標語)

全国表彰 受賞の お知らせ (敬称略)

平成25年 2月 第65回日本消防協会定例表彰受賞

- ・優良婦人消防隊 東松島市婦人消防隊
- ・優良婦人消防隊員 阿部 弘子 (亙理地区婦人消防隊 隊長)
岡 ミチ子 (仙台市若林地区婦人消防隊 隊長)

平成25年11月 消防団120年・自治体消防65周年記念表彰受賞

- ・日本消防協会会長表彰 (婦人消防隊育成成功労者表彰)
後藤 重子 (宮城県婦人防火クラブ連絡協議会 会長)
- ・日本防火・防災協会会長表彰 (優良婦人防火クラブ)
南蒲生町内会婦人防火クラブ

広告 ～県民の安全・安心な暮らしを支えて～

消防用設備等の適正な点検により安全・安心な毎日を支えます

消防用設備等点検済ラベルを貼付できるのは
厳正な登録審査を受けた登録会員のみです。

- ◆高い技術を持っている
プロフェッショナルです。
- ◆点検業務に起因する事故に対する
損害保険に加入しています。



全国統一ラベル

消防用設備等の適正点検の証!!



消火器用



消火器以外の
消防設備等用



一般社団法人宮城県消防設備協会
会長 井上 恭司

〒980-0014仙台市青葉区本町3-5-22 電話022-223-3650

宮城県消防設備協会

検索



「東日本大震災を経験して」

仙台市婦人防火クラブ連絡協議会

若林地区会長 **山田 はるみ**

私たちが活動している若林区は、旧藩制時代の街並みを残しながらも、地下鉄東西線の建設や新興住宅地の開発と沿岸部の復旧・復興が急ピッチで進んでいます。老若男女様々な世代がともに住まい、働き、そして訪れる、新旧が珠洲玉のように光る、たくさんの魅力にあふれる地域です。

私たち若林地区婦人防火クラブは、10支部128クラブで構成され、「家庭から火を出さない」「防火は家庭から」「地震に強いコミュニティへ」を目標に掲げ、火災予防運動や地震対策の訓練に力を入れて活動しています。

東日本大震災では、沿岸地域に津波が押し寄せ、家屋の流出と多くの人命が失われるという甚大な被害を受け、津波被災地の14クラブが活動休止となりました。

震災時、私たち婦人防火クラブの活動は、それぞれの地域での避難所が主な活動の場になり、炊き出しなどの活動を夢中にこなしていく中で、「どうして?」「何故?」「こんなはずでは?」と思ったことがいくつもありました。

食料が充実するまでにタイムラグが生じ、人の心と命を支えるのに必要な食が十分になるまでには予想をはるかに超える時間がかかってしまったこと、また、地域のこれからを支える子供たちの笑顔や元気が無くなってしまっていたことなどです。



このような震災時の辛い体験から、私たちの活動にはこれまでと違った変化が表れてきています。それは、防災活動に今まで以上に力を入れて取り組むようになったほか、防災訓練では、津波避難に関する内容を含むようになったことです。各支部の研修会の内容も変化してきており、「命を救える、応急処置のできる婦人防火クラブ員に」と考えるようになり、普通救命講習会を実施する支部も増えてまいりました。

また、「がんばろう仙台っ子キャンペーン」と題し、若林地区の小学生全員に、地震が起きたら最初に行う事や家族の防災チェック項目を印刷したクリアファイルを配布致し、非常時の『食』を意識し、炊き出しをする際の優先的に摂るべき栄養について、管理栄養士による講演会を開催するなど、より具体的な取り組みへと変化してきています。

東日本大震災は、私たちに深い悲しみと、やり場のない怒りなど、暗い陰をそれぞれの心に落としました。しかし、震災後のクラブ員一人ひとりの意識変化が、若林地区婦人防火クラブ全体を大きく変えていることは間違いありません。

辛い経験や心の痛みから学び、育てた防火・防災意識を胸に、各家庭や子供たちに防災の心が育つよう、これからもなお一層、防火・防災対策の普及に努めてまいりたいと思います。



「試行錯誤の登米支部の活動」

登米市婦人防火クラブ^{とよま}登米支部

支部長 後 藤 久美子

私たちが住む登米市は平成17年4月1日「平成の大合併」により登米郡8町と本吉郡津山町の合併によって誕生しました。

登米支部は、平成21年度までは4地区に区分されており、主に登米市婦人防火クラブ主催の行事に参加するのみで、特に独自の活動等目立った事業は実施していませんでした。

平成22年度には市の指導もあり、各行政区に自主防災組織が結成され、これを機に支部婦人防火クラブも行政区単位とし、各行政区から代表者を推薦していただくことになりました。この結果、全38地区のうち34地区で代表者が決定しましたが、4地区がまだ決まっておらず、婦人防火クラブの意義を理解していただくよう努力しております。

また、私は以前から婦人防火クラブの一員として活動していたこともあり、登米支部長に推薦されて大役を引き受けることになりました。しかし、リーダー経験の少ない中でのお話でしたから、県や市の行事に参加することが精一杯で、この支部の舵取りをどのようにしたらよいのか模索するもの焦るばかりで、帆がなかなか上がらず前途多難な状態での船出でした。

そこで、総合支所の担当者と幾度となく相談を重ね、「何をやるか?何をやるべきか?」よりも、「とにかく何かをやろう!」ということで、AED操作を含む心肺蘇生の研修と炊出し訓練を24年度、25年度と

2年間実施してみました。

無我夢中で実施した1年目の炊出し訓練は失敗した部分も多々ありましたが、2年目の役員会ではこの失敗を反省し、前に進もうとする建設的な意見が多く出され充実した役員会となり、「ほっ」と一人安堵していたことを今でも鮮明に覚えております。

今、支部内の各地区では、まずは「炊出し訓練から」を合言葉に訓練が実施されるようになり、試行錯誤で始まった活動が少しずつではありますが、着実に浸透してきていることを実感しているところです。

今回は、「非常食試食会」を予定しています。これからは、役員以外の会員の方々にも声をかけ、若い年代からの意見も参考にし、幅のある交流を深め盤石な組織づくりを目指してまいります。

東日本大震災以来、想定外の想定も考える時代となりました。地球温暖化の影響と思われる大雨、洪水、竜巻、土砂災害等がここ数年当たり前に発生を見えています。

幸い当登米市においては、これらの災害は発生しておりませんが、婦人防火クラブに出来る「いざ鎌倉」の備えを、今後の活動に盛り込んでいきたいと考えております。

3年目を迎える登米支部は「とにかくやってみる」の精神で、独自の活動を実施しながら、女性パワーで地域の安心・安全に貢献できるようにしていきたいと考えております。





「仙南地区婦人防火クラブ連合会の活動」

仙南地区婦人防火クラブ連合会

会 長 佐 藤 ト シ

当連合会は、2市7町（白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町）における婦人防火クラブの連合会組織として、昭和56年12月に発足しました。

管内は、県の南部に位置し、西は山形県、南は福島県に隣接しております。古くから街道の要衝として栄え、東北新幹線や東北、山形自動車道、東北本線が管内を貫いており、それらを生かしての農業、林業、観光業から製造業まで幅広い産業が発達してきた歴史のある地域です。

「自分たちの地域は自分たちで守る」というスローガンを掲げ、現在、単位クラブ490、クラブ員数約5万名が防災訓練や防火講話、住宅用火災警報器の普及啓発活動等、各地域に根差しての様々な活動を行っております。

また、連合会行事としては隔年交替により「リーダー研修会」と「クラブ員研修会」を実施しており、近年の実施概要について以下にご紹介いたします。

- 平成22年（リーダー研修会）：DIG（災害図上訓練）を実施しました。自分達の地域の課題や、災害対応とその対策について再認識をしていた矢先での東日本大震災。結果的に震災時の私たちクラブ員の活動に大きく役立てられた研修会でもありました。
- 平成23年（クラブ員研修会）：東北大学大学院工学科の石井教授を講師にお招きし「放射性物質による環境への影響とその対応について」と題した講演会を開催、福島第一原発事故による放射能汚染災害についての知識を深めることができました。



- 平成24年（リーダー研修会）：規格改正となった消火器とそのリサイクル方法について学び、防災製品の燃焼実験等を行いました。
- 平成25年（クラブ員研修会）：東北福祉大学の鶴橋徹先生による「東日本大震災と防災・減災について」の講演を頂戴し、私たちクラブ員の役割と災害に対するその備え等について再認識をいたしました。

また、一昨年には、岩手県雫石町婦人消防協力隊の皆様視察研修に訪れて頂き、震災時における私たちの活動のみならず、約1ヶ月にわたる被災地への支援活動について紹介させて頂きました。様々な意見の交換が出来たことは、今後の私たちの活動を考える上でも、大変有意義なひと時でございました。

結びに、東日本大震災から間もなく3年、復興への道のりはまだまだ険しいと思われ、さらには南海トラフ地震や首都直下型の大地震が危惧されております。また、日本各地で台風や豪雨等の自然災害が相次いで発生している昨今、私たち婦人防火クラブ員の果たす役割は益々重要になってきていると感じずにはいられない日々でございます。

今後ともクラブ員同士の力を合わせ、私たちの街の「防災」と「減災」そして「無火災」に貢献して行きたいと思っております。





情報コーナー

宮城県の住宅用火災警報器の推計設置率 86.9% 全国第3位!

平成25年6月1日時点の全国の住宅用火災警報器の推計設置率は79.8%で、宮城県は、福井県(91.8%)、大分県(88.0%)に続き全国第3位でした。当協議会では、年間の重点事業として、「住宅用火災警報器見回り

作戦」を実施し、各地域において、戸別訪問などの普及活動を展開しています。今後も、県内全戸設置を目指して、更なる設置推進に取り組むとともに、維持管理の呼びかけを実施しましょう。(P.8参照)

～つけてて良かった!住警器!(奏功事例の紹介)～

住警器による早期発見により大きな火災に至らなかった事例を少し紹介します

事例①

こんろの鍋に火をかけたまま外出し、通行人が、焦げ臭いにおいと煙が立ちこめているのを発見し、さらに住警器の警報音が聞こえたため、携帯電話で119番通報した。

事例②

住人が居間で反射式石油ストーブをつけたままトイレに行った際、住警器の警報音と焦げた臭いに気がつき居間に戻ったところ、このストーブの上でつるし干していた洗濯物が燃えていたため、鍋に水道水を入れ、初期消火をするとともに、携帯電話で119番通報した。

事例③ 仮設住宅での事例

就寝中の隣人が、隣宅から「ピーピー」という音が鳴り止まないことを不審に思い、携帯電話で110番通報した。駆けつけた警察官が隣宅に入ると、住人がベッド脇に横たわり、その近くで電気ストーブに接した状態の座椅子が燃えているのを発見したため、洗い桶で水を汲み消火した。

広告

東日本大震災で被災された皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。幸いにもこの度の震災において、奇跡的にもLPガスによる事故・火災は皆無でございました。今後とも安全・安心なLPガスをご利用いただきますよう宜しくお願い申し上げます。



◆地震が起きた時の心構え◆

地震が発生したら、まず第一にご自身やご家族の安全を確保することが大切です。日頃から、ご家庭にて有事の際に取るべき行動をご家族と確認しておきましょう。

心構えその1

自分の身を守りましょう

まず、身の安全を確保して下さい。(玄関や勝手口の扉、窓などを開けて逃げ道を確認しましょう。)



心構えその3

巨大地震後にガスを使用する時には

- 自宅のLPガスボンベ等が倒れていないことを確認して下さい。
- 地震発生時(震度5程度以上)、ガスを使用していた場合はマイコンメーターが自動的にガスを遮断していることがあります。
- この場合、ご自身でマイコンメーターの復帰操作※を行えば、ガスがご使用になります。日頃から、販売店に確認しておくで役立ちますね。



心構えその2

火の始末をしましょう

器具栓、ガス栓及び容器バルブを閉めて下さい。

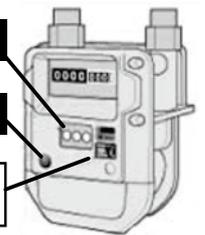


マイコンメーターの復帰方法

表示ランプ

復帰ボタン

検定有効期限ステッカー



すべてのガス栓・器具栓が「閉まっていること」を確認してください。マイコンメーターの[復帰ボタン]のキャップを外し、ボタンをしっかり押して[表示ランプ]が点灯したら手を離してください。1分後、ランプの点滅が消えていれば、ガスは安全にご使用出来ます。

※この方法でガスが使用出来ない場合は、販売店に連絡して下さい。

●LPガスを安全に使用するため、又、LPガスが使用出来なくなった時に備え、LPガス販売店の緊急連絡先「電話番号」を確認しておきましょう。

【社団法人 宮城県エルピーガス協会】 〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-5-22 TEL.022-262-0321

住宅用火災警報器を正しく機能させるには、維持管理が大切♪

点検

定期的な作動確認をしましょう！

定期的な作動確認をし、警報音を確認しましょう。ボタンを押しても(ひもを引いても)作動しないときは、「電池切れ」や「故障」が考えられます。

掃除

定期的にお手入れをしましょう！

ホコリやクモの巣がつくと感知しにくくなることも…！汚れなどが目立ってきたら中性洗剤を浸して十分絞った布で外観の汚れを軽く拭き取りましょう。

※機種によってお手入れの方法が異なりますので、取扱説明書を確認してください。

交換

最大10年を目安に交換を！

センサー等の寿命により10年を目安に交換が必要です。点検や電池交換の際に、本体の交換時期を確認し、計画的な交換をおすすめします。※廃棄方法は住まいの地域のルールに従ってください。

「いざ」というときに住警器がきちんと働くよう日頃から点検とお手入れをしておきましょう！



広告



冷却効果のある液体薬剤が確実に消火します



周囲を汚さず使用後もお掃除が簡単です

住宅の様々な火災に対応
安心・安全な液体の消火器

～消火器リサイクルシールについて～

現在製造されている消火器にはリサイクルシールが貼付されています。廃棄する際にはリサイクル費用はかかりません。(回収のための収集運搬保管費用は別途かかります)

見本



天ぷら油火災に最適



シャンパン
ゴールド

エメラルド
グリーン

プラチナ
シルバー

ルビー
レッド

全4色 高さ376mm 総重量2.2kg 有効期限5年

お酢からできた消火器 キッチンアイ



Made in Japan



*お問い合わせ先
団体購入のご相談は

宮田工業株式会社
神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-1-1

サポートセンター
TEL:0467-85-3365